

幼児教育学科

Early Childhood Education

●器楽 I

器楽(ピアノ)は幼児教育現場での「表現」の領域や諸行事において重要な役割を担う教科です。学生が少しでも早くピアノに習熟するために、自主的・意欲的に学習する態度・習慣が身につくように指導し、併せて「弾き歌い」に熟達する事をめざします。

●器楽 II

器楽 I でグレード分けした形式と内容を継続し、課題曲のレッスンを展開します。段階的な内容のアップグレードに伴い、指導の内容もテンポ・リズム・強弱の他、ペダルの踏み方や発想記号の解釈など、より踏み込んだものにしてきます。基礎技能のさらなる充実と音楽の基礎知識の上積みを図り、同時に弾き歌いによる歌唱表現力の向上も目指します。

●器楽 III

器楽 I・II で積み上げてきた技能を幼児教育の現場で実践するために、リズム、ラン、スキップの要素を採り入れた楽曲をピアノ課題にします。さらに弾き歌いの課題も新たに設定し、夏期に実施している保育園・幼稚園などの各実習に活用できるよう、現場で比較的多く使われる「生活のうた」「季節のうた」などを多く組み入れます。

●器楽 IV

器楽IIIまで習得してきたことの集大成として、学生おのおの実力に適したピアノ曲を課題とし、最終の卒業試験を目指します。卒業試験は、各クラス毎に全授業終了後に日程を設定し、公開の演奏会形式で行います。同時に弾き歌いのレッスンは継続し、よりレパートリーの拡大充実を図ります。

●美術 I

美術でいちばん大切なことは、まず「描いてみたい」「つくってみたい」という気持ちになることです。人の思いや考えは目に見えませんが、作品というかたちになり見えてきます。作品を通して他者とコミュニケーションが生まれ、未知の自分に出会えます。かたちに表わすことの楽しさ、面白さ、喜びを、子どもと関わる人自身が体験的に知っていてほしいと思います。

●幼児体育 I

幼児の運動あそびに関する指導理論と指導方法について学びます。実技指導の中で理論解説を行ない、指導技術を高めて行きます。また現場指導VTRをもとに授業を進め、指導案の立案や模擬保育による指導技術の習得を行ないます。

●社会福祉 I

社会福祉も他の社会的制度・施策と同様に歴史的・社会的所産です。今日の我が国の社会福祉がいかなる時代的趨勢の中で生まれてきたのか、戦後50年の歴史を振り返り、その今日的到達点及び今後の展望について学んでいきます。

●小児保健 I

保育所や幼稚園、児童福祉施設など保育現場において、また医療機関や家庭・地域と連携して、健康な子どもを育てるために、子どもの発育・発達、子どもの病気、その予防、子どもの健康的な生活習慣について医学的な基本的知識を学びます。

●教職入門

教育原理・教育心理・教育法規・教育課題などを、具体的な教材を基にしてグループ討論、全体討論も交えて学習します。履修を通して、広い視野から自分の考えをもち、自分の目指すものを問い続ける姿勢・態度の形成を図ります。

●教育概論

幼児教育者は幼児の人格の理想であり、行動のモデルとなり、また保護者や地域社会もアドバイスや支援を求めます。このことを自覚して、幼児教育に関する基本的な知見と態度を幅広く学び、的確な視野を持った幼児教育者として活躍できるようにします。

●保育原理 I

保育とは「何か」という原点を、今日の社会情勢の中で正しく捉え、一人ひとりの子どものよりよい発達を援助するために、どのように保育すべきかを、教育要領と保育指針の基本的な考え方と内容で学びます。さらに保育者としての「子どもや保育をみる目」をより深く確かなものにするために指導案を作成し、実習の体験を重ねていきます。

●教育心理学

子ども達が学ぶ喜びを発見し、いきいきと創造的に生きていくためにはどういった関わりが大切でしょうか。確かな子ども観を持ち、対象へのよりよい実践に取り組む力を養うために、教育心理学の知識、理論を学び、子どもの行動に対する新たな視点や態度を獲得していきます。

●発達心理学 I

発達心理学の対象範囲の中で最も発達の高い乳幼児期・児童期を中心に取り上げ、「育つ」メカニズムを知り、「育ち」を見守る立場として、どのように援助を行えばよいか、どのような相互関係が健康な心の育ちに必要なのかを考え、学びます。

●発達心理学 II

発達心理学 II では、発達心理学Iに引き続き、学生自らの発達段階である青年期を中心に、胎児期・乳幼児期からの連続性の上に成り立つ、生涯発達心理学を学びます。自分がこれまでをどう生きてきたかを振り返り、自らの心理・発達を知ることによって、発達をより深く理解し、次世代の保育に生かすことを考えていきたいと思います。

●子どもの人間関係 I

子どもたちは、温かい人間関係の中で、自己の存在感、共感や思いやり、集団への参加意識を培い、自分自身の生活を確立していきます。授業を通して、人間関係の発達に対する理解とその関係をつくり出す力の基礎を育てる理論、そして遊びを基軸とした実践方法を学びます。

●子どもの環境 I

幼稚園の環境をより良く整備することは重要なことですが、それ以上に人的環境としての教師の役割が大切となります。子供にとって種々の遊びを経験するのにどんな環境構成が望ましいのか、さらに教師は子供達をどのように援助していったらよいかを学びます。

●子どもの環境 II

子どもの環境 I に準ずるが演習を出来るだけ多く取り入れ実践的な学習を積み重ねます。例えば、草花と親しむ、草花や木の実で遊ぶ、小動物と親しみ遊ぶ、身近な素材にふれる、遊具・用具にふれる、季節とのかかわり、天体とのかかわり、地域の行事とのかかわり、地域の施設とのかかわりなど、幼児教育の現場に即した学習を進めます。

●子どもの健康 I

子どもの発達過程をとらえ、心と体の健康をめざして、基本的な生活習慣や運動、安全への習慣などを身につける必要性とその方法について、グループワークや課題学習などを通して勉強していきます。

●子どもの美術表現 I

「見たり、聞いたり、触ったり、感じたりする楽しさを大切に育てていくことも美術の授業」と考えています。授業を通して、かたちに表わすことの楽しさ、面白さ、喜びを、まず子どもと関わる人自身が体験的に知ると同時に、美術を通して更に子ども理解を深め、他の領域とも関連させながら指導法を考えます。

●子どもの美術表現 II

保育者として子どもに美術的活動の楽しさ・面白さ・喜びを伝えられるように、また、美術を通して子どもの豊かな感性や想像力・表現力を育てるためには、どのような環境を設定するか、どのような工夫をするか、どのような援助・指導をすればよいか、などを学びます。

●子どもの音楽表現 I

1. 幼児たちは日常的に、自然な活動の中で、歌ったり、動いたりしています。
2. 幼児教育では、この幼児の活動を、音楽表現として認識し、さらに発展するよう導きます。
3. 保育者として、幼児を導くために、基礎的な知識と技能の習得を目指します。
4. また、幼児の誕生会に参加することで、色々な表現方法を体験します。

●子どもの音楽表現 II

- 1 保育に必要な、音楽表現(歌唱指導、手遊び、指遊び等)の、指導力習得を目指します。
- 2 音楽の基礎技能の向上を図るとともに、簡易楽器の演奏や指導方法を学びます。
- 3 また、幼児の誕生会を企画し運営することで、表現方法を実践します。

●子どもの言葉 I

子どもの発達に、言葉がいかに重要であるかについて学び、子どもの言葉の育て方を身につける学習をします。その学習を通して、指導者の言葉の働きそのものが、いかに大切であるかを認識し、指導者にふさわしい言葉遣いができるように努める自覚と態度を養います。

●子どもの言葉 II

最近の家庭生活や社会生活の変化から、子どもの「話す」「聞く」「伝え合う」という言語活動が不十分になってきており、新しい「幼稚園教育要領」や「保育所保育指導指針」でも言葉の大切さが強調され、幼児教育の場における言葉の指導がいっそう重要視されています。保育者として不可欠な実践的・応用的な「言葉」による指導法や表現力を身につける学習をおこないます。

●音楽理論

楽譜に関する理論である「楽典」への理解を深めます。音楽を形づくる要素として、メロディー、リズム、和声を知り、正しく演奏につなげていくことを学びます。音楽の記録法、音楽の仲介として、楽典が生きる様、努力することを学んでもらいます。

●声楽

幼児教育の現場に於いて大切な音楽、特に歌唱は話声音にも繋がり、無理のないよく通る声で歌うこと、話すことは幼児教育者にとって大変重要です。声のメカニズム、呼吸、発声について理解し、常に発声練習を実施。幼児教育者として必要な童謡、楽曲を教材に取り上げ、音程、リズム、歌唱練習を行い、さらに歌唱の完成度を高めるため、身体表現をとりいれ体全体でリズムにのり歌うことの大切さ、よろこびを体感します。

●総合表現演習 I

共同製作および個人で作成をした保育教材(着ぐるみ・パネルシアター等)の操演方法を学習し、操演の基礎技術を習得することを目的とします。各自の操演技術の習得については、十分な効果を上げるべく授業以外でも練習を重ね、保育現場(実習)での演習を行います。

●総合表現演習 II

総合表現演習 I の授業で習得した「基礎操演方法」を基にし、着ぐるみ・パネルシアター・ペープサート等の教材を用いて、幼児を対象にした「ステージ発表会」を企画・構成し、グループでの発表を行います。発表の場としては、クラスを2チームに編制し、金城祭幼児教育学科行事の「わくわく広場」の発表チームと学外の発表チームに分けて演習発表を行います。

●保育内容総論

子どもを理解し、内面にある可能性を見出し認め伸ばしていくために、子どもを理解する力、一人ひとりの特性に応じた指導や援助を考えだす力を養います。また、保育所・幼稚園の子どもの生活や保育者のかかわりの現状を伝える機会を多くし、現場と密着したより実践的な感覚を養います。

●幼児理解

幼児についての理解なしに行われる保育活動も教育活動もありえません。幼児理解の理論と技法を学び、保育活動や教育活動に役立つようにします。同時に、自分のパーソナリティを理解することの大切さに気づき、保育士や幼児教育者として望ましい人間性を身につけることをめざします。

●教育情報機器演習

教員免許の取得を目指す学生対象として、教育に必要な情報処理の基礎を学習します。具体的には、コンピュータやWindowsの効果的な利用方法、インターネットを用いた情報収集や情報発信を、ソフトウェアの演習を通して学習します。

●保育指導法

保育者は先ず、子どもの遊びやそこに生じる人間関係を通しての子ども理解を深め、一人ひとりの特性に応じた人的、物的環境・自発的に関わられ子ども同士が影響しあえる環境を構成しなければなりません。また保育者自らが仲間との対話を通して学ぶことにより、より豊かな学びが期待できます。これらの指導・援助の方法をピア・ラーニング学習による演習を通して学びます。

●国語表現法

文章表現の習熟、特にビジネス文書を扱う能力の育成を目的とした授業です。このような科目は、高校時から学習していますが、学習を終えた知識の確認を心がけ、実践的な練習によってその能力の定着を進めます。さらにビジネスマンとしての基礎的な力として、ビジネス文書技能検定2級・1級に適合する表現力を培います。また、言葉に対する繊細な感覚も身につけ、豊かな日常生活に資することを目指します。

●児童文学

昨今では児童文化が商業主義の標的にさらされていると思われる場面に出会うことがしばしばあります。幼児教育に携わるものとして、子どもにふさわしい豊かな児童文化とは何かを考えることは大切であり、具体的な生活の中で児童文化を肌で感じるような学習を展開していきます。

●教育相談

毎日の教育実践の場で、教育相談の重要性は次第に増しています。教育相談や助け合いの理論や技法を学んで、実際の保育の場や教育の場で役立つように、エクササイズやリファーマを取り入れて演習形式の授業も行っていきます。

●総合演習

石川県内の複数の保育所長それぞれの考えやスタンスの話を聞き、提示された問題に対して討議する機会を通して、色々な保育スタイルを学び、自分に合ったやるべき保育を感じて認識し、自分自身の意志により学べるようになることをめざします。

●教職実践演習Ⅰ

人と人との関わりが希望ある社会の根源であることを理解し、コミュニケーション力について考えます。本来、子どもには創造する力があり、いろいろな素材を使い、工夫しながらものをつくっていく過程は大切な体験です。素材や材料の与え方、子どもが興味をもつ魅力的な教材の設定などを、実際にいろいろな素材を使って研究し習得していきます。

●教職実践演習Ⅱ

「実習報告会」「実習の評価に対する個人指導」「現場交流と現地での直接指導」などを通じて、保育者として実務に携わるために必要な知識を身につけているかどうかの最終チェックを行う科目です。また、2年前期までに学んださまざまな知識や技能を総括し、学生個々がより明確でしっかりとした意志と自信をもって幼児教育の仕事に従事できるよう「文書表現演習」「特別表現演習」「救急法」なども加えさらなる充実を図ります。

●製作Ⅰ

製作Ⅰでは、誕生会や、全園児が集うお楽しみ会などで、子供たちと楽しく遊ぶことが出来る「着ぐるみ人形」を製作します。その過程で創作の面白さを知り、脚本を考え、演じ方を研究し、上演することで、総合的な表現を学びます。教材の研究は子どもたちとのふれあいを豊かなものにします。心をこめて製作に取り組んでください。

●製作Ⅱ

製作Ⅱでは、子どもたちが大好きで日常の保育に役立つ「パネルシアター」の作り方、演じ方、手順を学びます。パネルシアターとは、フロンネルなどの布を貼ったパネル(舞台)に、不織布に描いた絵人形をつけたり、はがしたり、移動したりしてお話や歌遊びを展開して遊ぶ視聴覚教材です。製作を通してパネルシアターの特色を理解し、その基本を学ぶと共に、どのようにしたら楽しく演じられるかなどを身につけます。

●美術Ⅰ

上手に表そうとするよりも、感じたこと考えたことを素直に表現してみましょう。多くの素材や道具、技法を知っていた方が表現の幅は広がります。普段何気なく見ている身近な素材や道具にも、工夫次第でいろいろな可能性があることも発見できます。人の思いや考えは目に見えにくいものですが、作品というかたちに表せます。かたちに表わすことの楽しさ、面白さ、喜びを、子どもと関わる人自身が体験的に知っていてほしいと思います。

●児童福祉

今、「子ども」を取り巻く環境は、社会の変化・家族形態の変化によって、より複雑になり、大きく変わろうとしています。その中で、いわゆる「子どもの権利擁護」(「子ども」を一人の「ひと」として大切にしていくこと)が、「子ども」とかわる私たち大人・保育者に、何よりも求められています。「児童福祉」とその周辺の問題を体系的にまとめながら、現在そして未来の「子ども」について、共に考察していきます。

●小児保健実習

子どもを健康に育てるための実践的な知識と技術を習得します。子どもの健康観察をする力、判断する力をつけ、養護技術を身につけ、安全で衛生的な保育環境を整える実践的知識を知り、乳幼児に起こりやすい症状や急病に対処する知識などまで学びます。講義、DVD観賞、デモ実習などで確認・体験し、保育所、幼稚園、施設の実習で生きたノウハウを修得します。

●精神保健

今日ほど心の健康が求められている時代はありません。乳幼児期から学童期、思春期へとつながる成長発達の中で、心の健康が損なわれることは、その後の成長や発達に取り返しのつかない致命的な問題を生ずることになります。小児の問題は、ただ小児のみではなく、その周囲や背後までを含めて考えなければなりません。これらを踏まえて、精神保健の基礎的知識を理解し、小児が心身ともにバランスよく成長していくための方向を見極めることを主眼とします。

●乳児保育Ⅰ

1. わが国における乳児保育の変換と保育所・家庭の現状を確認しながら、保育所の果たす役割、および人間として育ち行く全ての基礎形成期である、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。
2. 保育所で乳児保育を担当する保育士として必要不可欠な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。
3. 最も成長発達の著しい(心身とも)乳児期(3歳未満児)の保育について学びながら、そこにおいての社会・地域・保育所・家庭の役割について、現実の事例をもとに研修研究し具体的に理解する。
4. 乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な保育内容や課題を提供し討議を通して、考え問題解決の最善方法を理解する。

●社会福祉援助技術演習Ⅰ

パーソナルサービスを担う専門職としての基本的要件である、社会福祉固有の援助技術の習得をめざします。

●養護原理Ⅰ

親子関係の複雑な諸問題を解決していく手段として重視される「社会的養護」の理念と意義を理解すると共に、その内容や方法論も同時に整理して、家庭や施設での「養護」が実際にどう行われてきたか、現在どういう問題があるのか、これからどうなっていくのかを明らかにしていきます。

●養護内容

「養護」の概念は、狭義としては「児童養護」をさす場合が多いと思われませんが、社会福祉全般に共通すると考えられます。「養護原理」を実際の場面でどう展開していけばよいのかを明らかにして、実践的な方法論を紹介・検討し、これからの「養護内容」のあり方を考えていきます。

●家族援助論

現代日本における家族を社会学の方法で論じ、「子育て支援」は児童・親を含めた家族が保育の対象であり、保育所のみではなく、その他の児童福祉施設の親についても必要とされること、家族の人間関係のあり方をふまえて適切な「相談・助言」を行うことなどの重要性を理解していきます。

●障害児保育

子どもたち一人一人の切実な、そして個別な問題や発達の歩みを出発点として、優れた臨床実践を参考にし、保育現場での実践を積み上げながら、障害児の指導の原則や指導方法に迫ります。その過程で、障害児保育の意義を理解し、高い専門性を獲得していきます。

●小児栄養

小児期の栄養は一生の健康を左右するものであり、保育者には栄養について正しく認識し実践する能力が必要とされます。子供の健康と栄養に関する理解を深め、理論を知り、正しい判断力を養い、実際に役立つ技術の習得をめざします。

●乳児保育演習Ⅰ

乳児保育は、個人と社会・文化の接点として重要な位置を占めるがゆえに、社会の要請も極めて高いものとなってきています。必修乳児保育を基本に、グループワークの形態を取り入れながら、0・1・2歳児の発達をさらに詳しく学び、乳児への理解を高めていきます。

●乳児保育演習Ⅱ

乳児保育を実践する保育現場での観察と援助体験を通して、具体例に見る日々の保育展開に接します。乳児の成長・発達の援助の基本を体得し、保育現場の状況や実態を常に認識し必要とされる保育実践・人的環境・物的環境・保護者とのコミュニケーション等、広い視野から乳児保育を捉え理解していきます。

●乳児保育研究

乳児保育演習を通して得た知識と体験をもとに、それぞれが研究テーマを定め、その成果を発表します。子育て支援の視点を含めた保育実践・演習・問題提起に基づき、ディスカッションやワークショップなどの演習形式で学びを深めていきます。

●障害児保育演習Ⅰ

障害児保育を理解する上で不可欠な子どもの発達の理解(生物学的、環境的、順序性など)を深めると共に、障害特性への理解を進めていきます。準備学習としては前後期一冊ずつ課題図書を決め、授業開始までに読後レポートを提出します。

●障害児保育演習Ⅱ

障害児保育の保育現場を訪問し、観察と参加を通して具体例をもとに日々の保育展開に接します。種々の障害の中でも、特にLD児やAD/HD児、高機能自閉症児、アスペルガー症候群などにも注目しながら、援助の基本を習得します。今日の保育現場で焦点を当てられている障害に注目し、援助の実際を理解します。事例研究をもとにコミュニケーション力の高まりをめざし、研究発表につなげていきます。

●障害児保育研究

障害児保育演習を通してケースカンファレンスを実施し、事例研究を深めます。保育計画、保育内容、保育評価にも着目し、研究成果としてまとめ、障害児保育を視点として自らの保育観の形成につなげていきます。

●音楽表現指導法Ⅰ

保育の現場における音楽表現「歌唱指導、音楽遊び、音楽を媒体とした表現」などの指導力を身につけるために、音楽の基礎技能の向上を図ります。クラス授業の形態の中で、ソルフェージュを大切に、個々の技能の発展につながるよう個人指導も行います。また、マーチングバンドの技術練習も加えます。

●音楽表現指導法Ⅱ

ピアノ表現を含めた音楽の基礎技能や音楽基礎演習をもとに、実際に保育の現場で使用する楽曲や教材、表現手段(手遊び、指遊び、パネルシアター、エブロンシアター、ペブサートなど)を活用して、具体的な音楽表現のための指導法を学びます。そして各表現について学生同士でディスカッションを行い、音楽を楽しみつつ、より内容を充実させていきます。

●器楽表現・演奏法研究

キーボードハーモニーと、器楽演奏法+発声法(声楽)の2グループに分かれ、隔週毎に入れ替わって学習します。キーボードハーモニーは技術の上積みを図り、簡易な楽曲の即興演奏ができることをめざし、器楽演奏法はピアノの個人レッスンによる技術向上、声楽も個人レッスンによりさらなる技術の向上を図ります。

●美術表現指導法Ⅰ・Ⅱ

美術を通して子ども・他者を理解し、環境・指導法を考え実践すること。全般的な発達段階を踏まえた上で、個々の「表現」や「思い」を読みとり受容できるよう、「みかた」'考え方'を養います。子育て支援施設、幼稚園、保育園、「金城祭」などでの美術活動を支援するため、対象年齢や実態に即したねらい・内容・環境設定・援助などを考え実践します。特に絵具あそびや造形あそび、五感を育む教材研究、絵画指導などは現場のニーズが高く、現場と連携しながら研究を深めます。

●美術教材研究

狭い意味での「美術」にとらわれず、様々な制約から気持ちを解放し、のびのびと自由に表現する楽しさを知る。五感を働かせ、心を動かし、イメージを豊かにする。例えば、音、風、光、時間、思い、言葉など形のないものを色や形で表現してみるなど、感じたことを自分なりに柔軟に表現できるよう試みます。そして表現の幅を広げていくように、様々な素材・技法に触れ、素材・技法のスキルアップを目指します。

●ガイダンスⅠ・Ⅱ

本学は「幼稚園教諭2種免許」と「保育士資格」取得可能な教員養成校です。資格・免許の取得に必須となる実習の意義、目的を2年間通して学びます。学習した理論や技術を、実習を通して子どもの発達や特性を理解し、信頼関係を深める人的環境を考えます。そして、子どもの生活の実態をとらえ、子どもに触れ、抱き、「子ども理解」につなげます。また保育者の職務内容を把握し、積極的に手伝うことで、「保育のプロフェッショナル」として社会で活動するための自覚形成とスキルアップを図ります。

●教育実習

●保育実習Ⅰ

●保育実習Ⅱ